

第2回第3期 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 会議録

開催日時	令和7年10月28日（火曜日） 午後1時30分・開会 午後3時30分・閉会
開催場所	上湧別コミュニティセンター2階大会議室
出席委員等	委員：猪熊副委員長、清水・片岡・水野・上松・遠藤・西村各委員 各部会長：岩瀬住民税務課長、北林建設課長、大口商工観光課長
欠席委員等	小幡・藤井・早川・今野・篠田各委員
事務局職員	企画財政課：井上課長、佐藤主幹、齊藤主査
議題	1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 報告 (1) 委員長の辞任について 4. 議題 (1) 第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート（案）における策定委員会による所見について (2) 湧別町人口ビジョン（素案）について (3) 第3期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について 5. その他 (1) 次回の会議日程について 6. 閉会
会議の公開	公開
傍聴人の数	0名
提出資料	(1) 第2回 第3期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会議案 (2) 湧別町人口ビジョン（素案、改訂版） (3) 第3期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）
その他	

1. 開 会

井上課長) ご案内の時間になりました。ただ今より、第2回目の湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会を開催させていただきます。本日、小幡委員、藤井委員、早川委員、今野委員、篠田委員より欠席のご連絡がありましたので、ご報告させていただきます。

なお、湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会条例第6条第2項の規定では、会議は委員の半数以上が出席しなければ、開くことが出来ないとされておりますが、本日の会議の出席委員数は7名であり、委員の過半数が出席しておりますので、本日の会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

2. 委員長挨拶

井上課長) それでは、猪熊副委員長よりご挨拶を申し上げます。

猪熊副委員長) 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。1回目の委員会で選任された遠軽信用金庫の奥村支店長が転勤により辞任されるという想定外のことがありまして、副委員長であります私から開会の挨拶を申し上げます。9日前の10月19日には湧別町長と町議会議員の選挙がありまして、庁舎建設をはじめ、これからの湧別町のまちづくりをどうするのかということが焦点になり、町民の皆さんも非常に関心が高かったのかなと思ってございます。この総合戦略につきましては、まちづくりの最上位計画の湧別町総合計画に準じた計画として位置づけられておりまして非常に重要な計画となっております。先日の1回目の委員会で町長から策定委員会に諮問をいただきましたので、今回から策定に向けた審議、検討を行っていくことになりますので、忌憚のない発言やご意見をよろしく願います。

井上課長) 本日の会議は概ね2時間を目途に終了させていただきたいと考えておりますが、協議内容が多いことから本日1日では予定議題を終了できない場合も考えられます。そのため、残りの議題については、次回の会議に持ち越しさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

3. 報告

(1) 委員長の辞任について

※議案に基づき事務局から説明 質疑無し

4. 議 題

- (1) 第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート(案)における
策定委員会による所見について

※議案に基づき事務局から説明 文言等の修正なし

- (2) 湧別町人口ビジョン(素案)について

※議案に基づき事務局から説明

水野委員) 9ページの説明であった社会増減の推移について、新聞報道等にあったものと違う件と12ページの外国人人口の推移の人数に入っているのかどうか、外国人の扱いについて詳しく説明して欲しい。

佐藤主幹) 9ページの社会増減資料は「住民基本台帳人口移動報告」からの数値であり、日本国内で住所を移したものが対象となるもので、国外からの転入や国外への転出は含まれていないものです。新聞報道等であった数値につきましては、「住民基本台帳人口動態」のもので国外からの転入出を含むものとなっております。人口動態では令和6年につきましては社会増減として39人プラス、令和5年につきましては増減なしの0となっております。12ページの外国人の推移の数値は各年の1月1日現在で住民票のある外国人の人数を記載しております。今回は人口ビジョンの改訂ということであるため、「住民基本台帳人口移動報告」の数値を改定しております。

片岡委員) 今後国内を経由した外国人の移動は増えていくと思う。

猪熊副委員長) 今までの流れはわかるが、12ページとの整合性を保つために参考でもいいので9ページにグラフをもう一つ追加してはどうか。

水野委員) 純粋に日本人が増えていかなければならないのでは。外国人が増えて人口が増えても町の実質的な発展というのではないような気がする。外国人が入ってくるという施策もあるが、高校生等が転出するのをとどめようとする、日本人の数値も必要な気がする。

猪熊副委員長) 実習生が増えているからと言って、日本人と外国人を区別しない方がいいと思う。外国人は実習生だけではないし、日本では外国人は珍しいかもしれないが、外国に行ったらいろいろな国々の人がおり、移住している人もいる。

片岡委員) 日本人を増やさなければならぬのもわかるが、結果は結果として両方乗せればいいのか。

西村委員) 9ページは結果をまとめているものである、見やすくなればそれでいいのではないか。

猪熊副委員長) この部分についてはわかりやすくすることによって進めたいと

思います。この部分以外に一つ提案があります。湧別町は合併した町であります。この資料では合併したというのがどこにも記載されていない。私は上湧別町だったので昭和25年が最高の2万5千人でしたよと言われてもイメージがつかない。合併時は約1万1千人で、当時から何割減少したとか、イメージできるようにした方がいいと感じるのですがいかがでしょうか。

片岡委員) 数字は旧2町の数値ですよね。

猪熊副委員長) その説明もどこにも記載されていない。

片岡委員) イベントとして合併したと記載があればいいということですよね。

水野委員) たしかにずっと一緒だと見えてしまう。

猪熊副委員長) それでは合併したとわかる記載を入れるということで修正案を次回提出するという形で進めます。続いて14ページから22ページまでの将来人口の推移についてご発言をお願いします。

西村委員) このデータがリアルに近い数字というのは理解しているが、それに抗い強気なスタイルというか姿勢を見せていくというのもいいのかなと思っていて、いろいろやった結果社人研の推計よりも584人数字を抑えられますよということですが、例えばざっくり4,000人にするとか、急なグラフの減少をできるだけ横ばいに持っていくとか、非現実的かもしれないが、頑張りたいと思っている人間にとってはそういう風に掲げてみるものいいんじゃないかとは思っています。

猪熊副委員長) この数字を見ると寂しい感じがする。

片岡委員) 合計特殊出生率と移動率を調整しないと線は変わらないということですね。

佐藤主幹) 5年平均の合計特殊出生率の1.49ですが、直近1年間の合計特殊出生率はもっと低い数値となっており、令和6年度は1.13、令和5年度が1.22、令和4年度は1.12と下がっている状況です。今回の人口推計にあたり、合計特殊出生率は国民希望出生率といいまして、国民がどう希望しており、希望が叶うとした場合に想定される出生率である1.8を目標として掲げ、その後、人口置換水準といい人口が静止するとされている2.07を目指していこうという数値としております。前回、西村委員が言われたように大きな目標とした形で推計をしまして、その結果、2060年には4,000人を目指していこうという形で作らせていただきました。

西村委員) これでも高い目標だということですね。了解しました。

猪熊副委員長) 自然減については日本中というか、うちだけの問題ではないので、どちらかというと社会減への対応が必要ではないかと思う。開盛の分譲地は上湧別学園になると言った途端、遠軽から子供がいる世帯が購入し

家を建てている。遠軽から湧別に勤務する人もいるので、その人たちを何とか湧別に住んでもらえるよう考えていかなければならないのではないかな。

水野委員) 出生率を増やすにしても、若い人がいなければ増えていかないのだから、若い人をいかにうちの町に連れてくるか考えなければならない。

片岡委員) 両輪で考えなければならない。こっちが大事だということもあるかもしれないが、両方やらなきゃだめだと思う。絶対数を増やさないと結局は人の取り合いになる。出生率が上がってというのが理想ではあるが、現実的には若い人を引っ張ってくる必要もあるし、両方頑張らないといけないと思う。

遠藤委員) 魅力を感じてこられる人もいるが、若い人たちは遊ぶことを考えたら都会がいいという人もおり、それぞれの考えがあって、高校から町を離れる人はその先もっと遠くに出て行ってしまいうし、町に残ってくれても仕事するところがなかったら出て行ってしまいう。逆に保育園留学として移住体験してとてもよかったといってくれる方もいる。

上松委員) 大きい企業であれば育児休暇取得のときに何割か給与が出るが、多くの人はお金の面があるので保育所に入れ働く必要がある。2歳くらいまで、その期間が保証されるような育児給付金のようなものが可能で7割、8割出れば働かなくてもいいので出産してもいいとなるのではないかな。また、出産した後に戻れる企業形態が少なく、ここで産み育てる環境となっていないのではないかな。一次産業であれば戻ってきても働き先があるが、サラリーマンなどの親にとっては戻っておいでとは言いがらうと感じる。ここで起業できるベースがあればいいがそのような状況ではないのでもう少しアピールできればいいと思っている。大きい企業だと1人目100万円、2人目150万円といった出産祝い金みたいなのが出るところもあり、大きい企業があれば出生率も増えていくというのが現実にある。3人以上生まれると1人200万円出ますとか、そういうのがあれば留まれる。もう少し全面的に湧別町は子供に対して熱いものがあると出せばいいのではないかな。

猪熊副委員長) 企業がお金を出しているのは、その人をずっと社員として継続して雇用しますというのが前提なんですよ。例えばそれに対して町が企業に対して補助する、もしくは町がお祝い金を出すことも考えられるということでしょうか。

上松委員) 町がお祝い金を出すなどすれば魅力を感じるのではないかな。

猪熊副委員長) そういった施策については総合戦略の方で意見を出していただければと思います。先ほど説明があったように、高い目標を掲げていることもあってこのままでいいのか、もっと上げていくのか。とりあえずこの

案のとおりで検討し、いろいろな施策を検討していくうえで、最終的にもう少しプラスにできるのであればそこで修正していくような方法で進めたいと思います。

- (3) 第3期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について
※議案に基づき「第1章基本的な考え方について」事務局から説明

水野委員) 町議会との連携とあるが、どのように考えているのか。

井上課長) 常任委員会か全員協議会か、議会と協議をし、内容の説明をすることを考えている。

※議案に基づき「第2章基本目標、基本施策及び具体的な施策の展開」の22ページまで事務局から説明

猪熊副委員長) まず、まち創生について協議していただきたい。

西村委員) ここに入ってくるぐらいLINEの情報発信に力を入れるということで、自分もよく観るが湧別町のLINEは質が高いと感じており、これからもいろいろ発信してほしいと思っている。まち創生の基本目標だが、町民のことをすごく考えていると伝わるが、逆に外から来る人へのイメージがあまり湧かないと思っている。何でかなと思ったとき、まち創生の基本目標とひと創生の基本目標が重なっていたり、ごちゃごちゃになっているので、例えばまち創生は町民に寄せるもの、ひと創生は観光だとか外の人に向けてのものであったり、まち創生はまちづくりに特化した目標にする等、すみ分けが必要ではないかと感じたので、他の方の意見を聞いてみたい。

片岡委員) 分類が難しいかもしれない。これが間違っているとも言えないし、あっているとも言えない感じなので、例えばこのまま進めていって、やっぱりこっちに動かした方がいいんじゃないかというのはできると思うので、これをベースに考えながら進めていってはどうでしょうか。

猪熊副委員長) 意見のあったとおり、基本的にこのまま進めていき、変更したほうがいいものが出てきた場合に変更する方向で進めていきたい。

西村委員) 公共交通の確保、移動の手段がこれから課題になってくると思っており、ライドシェアや上士幌で行っている無人バスについて、実現は難しいかもしれないが、次を見据えた目標も入れていきたいと思っている。湧別は面積が広く市街地がそれぞれ点在しているので、観光客やタクシーを呼ぶ人がスマホで完結できるライドシェアがあったら便利だと思ってもらえるかもしれない。無人バスが可能であれば、お年寄りが好きな時に好

きなところで乗れたり、バスが大変なら呼び出せばハイエースなどが迎えに行くようなことを行っている町もあったりするので、交通確保の面でちょっと何か新しいものを入れる、そこに手を付けていくよみたいな書き方ができればいいと思う。

井上課長) 町としてそういうことは考えているのですが、どれが湧別町にあっていいのかまだはっきりしていないので、実情に合わせて検討していきたいと考えております。その中で、27ページで地域公共交通確保維持対策事業として自家用有償旅客運送事業を盛り込んでおり、具体的な事業名では言っていないのですが、何か湧別町にあったものを実施していきたいと考えております。文章の中で読み取れるかと言ったら難しい状況ですが、「地域の実情に合った運行や利便性を損なわないような公共交通の仕組みをつくり」という表現でちょっとはっきりしない言い方かもしれないですが、読み取れるように文言を入れております。

猪熊副委員長) 空き家・空き地対策について、市街地に空き店舗がかなりあるのだが、その中でも店舗兼住宅となっており、店は閉めているが奥の住宅に住んでいるという状況である。店舗兼住宅を解体したら500万円ほど費用がかかるが、町の補助金が対象外となっているので、その部分も対象にして欲しいと考える。もう一つ、ゴミの回収について、湧別地区は戸別収集で上湧別地区はゴミステーションに集めて回収するという収集方法が異なっており、燃やすごみの収集も週2回と週1回で地区により異なる。地域で差があるというのは解消していく必要があると考える。あと、公共施設の統廃合の推進について、公共施設等総合管理計画実施率とあるが、公共施設再配置実行計画の実施率ではなかったか、確認したい。

佐藤主幹) 公共施設等総合管理計画の実施率について、公共施設等総合管理計画に基づき、個別計画として公共施設再配置実行計画を策定しておりますが、削減率の目標につきましては、総合管理計画に定めております。

西村委員) 家を建てるとなると場所選びも重要となる。空き家を譲渡できるよう準備するのと、解体し土地を使ってもらうことも町の景観を守ったり安全対策として大事だと思うので、そこは力を入れてもらいたい。ゴミに関して、違いがあることを初めて知ったが、ゴミ収集する箇所を少なくして効率化するというものがあると思うが、お年寄りからするとそれだと困る方もいるため、いろいろなバランスをとる必要があると感じた。

遠藤委員) リサイクルステーションにゴミを出しても仕分けされ収集されないものもあり、元々住んでいる人たちがちゃんとやっても、新しく入ってきた人のゴミの捨て方がごちゃごちゃで班長達がきれいにしている現状もある。町全体でゴミ問題をどうするか考えていかなければならないと思う。

上松委員) ゴミのトラブルは結構あり、他の地域からゴミを捨てに来る人がいる。

誰が出したかわからないゴミがずっと置きっぱなしになっていて班長が一旦回収して再度出すことをしていたりもする。各家庭で番号を決めゴミに貼って出すなど、厳しく言えばそこまでやらないと厳格化できないと思うが、そこまでやるのがいいのか、なんとなくいままでどおりで出せばいいのか難しいと思う。

猪熊副委員長) 戸別収集とゴミステーション収集のメリットデメリットがあつて、ゴミステーションが置けないので戸別収集せざるを得ない場所もある。

水野委員) 収集の回数について、元々週1回であつたのが、市街地地区から要望があつて週2回になった経過があるが、全町で週2回にするには費用が掛かり、塵芥車の台数も足りないからできないと区切られてしまった。収集について合併してからずっと2つの方法で統一されていないので、ゴミステーションで出来るところはやってもらえれば収集の時間も短縮でき、その分違うところを回ることができると思う。

片岡委員) 湧別地区の方は自分の敷地にゴミを集められることに抵抗があるのだと思う。元々自分の家の前に出せばいいだけだったのが、ほかの家のゴミが集められ、ルールを守ってくれるのであればいいがそうでないものがあるとトラブルになる。例えば回数を平等にしようとするのであれば、今まで自分の家の前に出せたゴミをどこかに集約しなければ収集できないのだから、そういう相談をするのが先だと思う。

猪熊副委員長) 今回の会議はここで締めたいと思います。次回、またここから協議をスタートさせていただきたいと思います。

5. その他

(1) 次回の会議日程について

佐藤主幹) 次回の会議日程は11月下旬か12月上旬を予定とし、日程調整します。

6. 閉 会

猪熊副委員長) 事務局から説明があつたとおり、今回は11月下旬を目途に日程調整したいとのことですのでよろしくお願いします。

本日は大変ありがとうございました。

午後3時30分終了